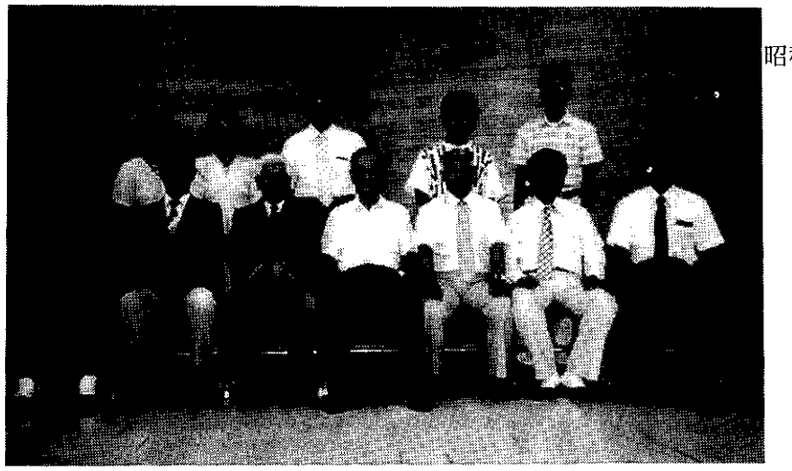
30周年記念座談会
「能勢町体育連盟の30年の歩みと将来」

出席者氏名

三浦　進（現連盟長）　奥　佳明（3代連盟長）　川上悦司（4代連盟長）
田口治作（5代連盟長）　前田稲生（6代連盟長）　仁木誠一（8代連盟長）
柏本義隆（10代連盟長）　福原伸子（現婦人会会長）　平通悠美子（前婦人会会長）
藤井　衛（町青協会計）　小嶋昌史（町青協常任理事）　清水忠治（現理事長）

（順不同）



昭和62年8月24日集録

司会（清水理事長）

本日は夜分、大変お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。

ただいまより能勢町体育連盟結成30周年にあたり、過去の思い出などを語っていただく会を開催いたします。

最初に、三浦連盟長よりごあいさつを申し上げます。

三浦

町体育連盟も結成以来30周年を迎えることになりました。そこでこの30年の記録を取りまとめるために、記念誌を発刊しようということになりました。本日お集りの各歴代連盟長、婦人会、青年団の方々に思い出話をしていただき、過去の成果を将来に残したく存じます。気楽な話しあいをお願い致しまして、どうか意義ある会となりますようご協力をお願いしまして、開会のごあいさつとします。

司会

最初に30年を思い出していただいて、その時々の話をしてもらいたく存じます。

奥

思い出してみますと、社会体育活動が理解を得られない時代でした。そこで意識の変革と高揚を図るために野球・ソフトボールなどをはじめました。また、女性が外へ出ることは大変むつかしかったけども、バレーボールの講習会をはじめてやりました。これらをきっかけにして、郡市対抗ソフトボール大会、剣道大会、北摂野球大会など内から外へ出ていきました。そして底辺を広げるために技術の向上、対外試合等を多く実行していきましたことが、今日の体連につながっていると思います。

田口

先輩から受け継いでやってきたが大変苦労が多かった。予算がないので、どないしようという時代で、みんな役員の方々の努力でなんとかやってきたと思います。当時はスポーツ保険にまだ入っていなかったので、ケガされたらどうするかということでスポーツ保険加入を推進しました。

川上

四カ村の青年層だけでは駄目だということから、レクリェーション・スポーツ等を体育連盟で考え、いろんな各種団体等も連盟の中に入っていただくような企画をやってきた。同時にスポーツでのケガ等の保障問題等も大きくクローズアップされ、現在のスポーツ保険ができ上がってきたと思います。

前田

野球協会ができていますが、当時部会制ができ野球部会とバレーボール部会ができました。同時にスポーツ保険の話題が多く全員加入になり、各種の団体にも啓蒙されていきました。

仁木

区対抗ソフトボール大会等いろんな種目に参加者が増えてきた。これもひとえに歴代連盟長の努力であろうし、スポーツ人口の増加に伴い、杉原運動広場、名月グラウンドができた。各方面の施設を見学しいろんな体育施設の充実等を町にお願いしてきた。高齢化によりゲートボールや他の種目を検討してきた。

柏本

時代の流れによりゴルフ大会をやってはどうだろうかという意見が出、ゴルフ人口の増加に伴い、町民ゴルフ大会を実施し現在にいたっている。また町民体育祭も春にもってきて一人でも多くの参加ができるよう体育連盟で考えてきた。新しい時代には新しい方法を考えることが必要であろうし、同時に町民ひとり一人の交流をスポーツを通じてすることが大事であると考えています。

司会

思い出話をいろいろありがとうございました。続けて特に社会体育への理解、一人でも多く参加していただくことのご苦労についてお話し下さい。

奥

好きな者がやっているという意識が強かったけれども、体育連盟の役割の中で底辺を広げ、技術を向上させ、健康をいかに保持するか等を考えた場合にやはりプール、運動場、体育館などの施設充実が社会体育の推進につながると思う。

田口

地域啓発をすることと同時に住民ひとり一人への啓発をやることが必要であろう。スポーツをしたいと思っているけどできない、そういう人を引っぱり出すには、やはり施設をつくることが先決であろうと思う。

川上

時代の流れにそって地域の人の要望を満

たしていくには、体育館等の施設を建設していくことが必要であろう。同時に余暇の増大に伴って、どんなスポーツをするかを十分考える必要があろう。

司会

婦人会、青年団の立場からお願いします。

平通

スポーツを通して四支部が交流することは大変よいことだと思いますが、役員だけのスポーツ活動になってはならないし、内容を支部にない独自の物を考えていってはどうかと思います。昔はあったようですが婦人の体力測定等も考えていただいたらどうかと思います。

小嶋、藤井

青年団活動の中ではスポーツの技術よりも心のふれあい、親睦を第一として考えその意味からバレーボール大会は大変有意義に参加させていただいています。今後もこのような大会を企画していただいたらうれしいと思います。特に青年団活動が団員の減少により、行事が縮少化されつつありますので、掘り起こしの意味においてもスポーツ活動を通じて団員の増大を図っていきたく思います。

福原

婦人の体力向上のため各種の大会を計画していただいていることに対しお礼を申し上げます。これらの行事を通じて思うことは、特に婦人に対する指導者の養成や体力測定の実施を考えてほしいと思います。将来につながる婦人の健康増進にも役立つようにお願いします。

司会

過去を振り返っていただきましたが、その中でスポーツ人口をいかに増加していくかが問題点となっていましたが、これにしぼってもう少しご意見をお願いします。

奥

体育の専門家による技術指導を考えていくのも一方法であろうし、その中から能勢町のスポーツ指導員等の養成を考えていくと同時に施設、特に社会体育館の建設を促進することが必要であろう。

仁木

青年団の参加が少なくなってきているが、やはり後継ぎをつくる意味からも組織強化をおこなっていくように、また、ＰＲ活動等を強力に進めてほしい。行政面の強力なバックアップを望みます。

奥

ゲートボールが大変盛んになってきている。大いに学ぶべき点がありますね。

川上

人と人との和をつくることも必要ですね。

田口

引っぱっていく人が、大変苦労される所ですが、やはりスポーツを通じて、心と心のつながりやコミュニケーションをもつ機会を多くつくっていくことでしょう。

司会

最後に、21世紀を迎えるに当っての将来の町体育連盟の展望について話していただけますか。特に、施設、高齢社会、体育連盟部会等についてお願いします。

川上

町民ひとり一人に体育連盟ＰＲしていくために、年度当初に町広報等でクラブや部の紹介をする必要があるでしょう。そのことにより、理解と啓蒙がえられるでしょう。

そして、体育連盟の発展につながると思います。

田口

やはり私も、行事の計画をいろんな形でＰＲしていく必要があると思います。

奥

ボランティアの人以外に、学校の先生方にも大いに協力していただいているし、今後も大いに協力願うことが大切であろう。

歴代の役員さんも大変努力されてきたが、今後も大変な仕事であるけれども、社会体育振興のために努力されるようお願いしたい。

柏本

今後も若い先生方が体育連盟の中核に入ってきてほしいし、地域のスポーツ振興のためにも大いに協力願いたい。そのことが、子どもたちの健全育成に大きな原動力となると思う。

奥

住民の健康を守る意味から、スポーツ人口の底辺を広げることが重点課題であり、このことを行政のバックアップで強力に押し進めることが必要であろうし、特に、社会体育館建設を早期に実現していくことが大きなプラスになるであろうと思う。それと同時に、スポーツ指導者を養成する機会を多くつくり、認定制度も考えてはどうか、また、それぞれの種目が独立した部会（協会）制に移行していくことでもって、意識強化につながると思います。いつでも、どこでも、だれとでも、スポーツができるような場所の確保が今後、将来にわたって必要だと思います。

平通

婦人は今でもスポーツ活動について消極的であると思うので、多くの呼びかけでだれでもが参加できるような企画を考えてもらいたい。そのことが婦人を内から外への意識をもたせることができるであろうし、21世紀に向かってのスポーツの振興につながっていくと思います。

福原

指導者の認定制の話が出ましたが、特に婦人のスポーツの指導員養成を考えていただき、底辺のスポーツ人口を増加していく方策を体育連盟中心に行政も協力してもらって考えてもらうことが、少しでも多くの婦人の参加につながると思います。

田口

この頃は昔のように田の畦で話をされている様子も農作業の機械化により、あまり見られないし、職場の関係で朝早く出かけてしまうと夕方まで帰ってこない。地域のコミュニケーションが少なくなっている。これらを少しでも復活し、将来スポーツ人口を増やしていくためにはやはり施設・設備等の充実を目指して、行政のバックアップが必要であろうし、地域の集落の振興にも役立つであろうと思います。

柏本

将来、役員さんになる人は大変であろうと思われるので、それぞれの運営はそれぞれの部や協会独自で進めていき、そのとりまとめを体育連盟でやっていくという新しい感覚で進めていかないと運営がむつかしくなってくるのではないか。ということは幅広く活動されると思われるので、町体育連盟として何から何まですべての行事をこ

なすことは困難をきたすと思われるので、将来を見通して今からその方向で取り組むよう努力すべきではないか。

川上

新しく町民になられた方との交流を進めていくのもやはりスポーツを通じて互いに交流していくことが大切であろうと思います。そのことが地域の中でコミュニケーションを生み、連帯につながっていくであろうし、発展にもなっていくと思います。またその中には、スポーツの良き指導者もおいでだろうと思うので、その方々も指導的立場で参画していただくようにすることが人材発展にもつながると思う。

三浦

高齢化社会の話が出ましたが、現在、町内に十数カ所のゲートボール場が開設され多くの方々が利用され、数百人の老人パワーがあると聞いております。今後、益々高齢化が進むと思われますが、体育連盟としても何か企画を考える時がきているのではないかと思います。それには、中高年の健康づくりを進めていくことを考えるのが必要なことと思います。例えば、ゲートボールを世代交流の中で大いにやっていただくのも一つの方法であろうし、それぞれの大会の中に、40代・50代の種目を多くとり入れるように考えを転換していくことも必要であると思います。それと町民みんなが参加できる種目を考え、企画していくことが必要と思います。

仁木

若い人の参加が年々減少していると思われますが、やはり今後のことを考えていくと、青年層が進んで参加してくれるスポーツのイベントを体育連盟としても考えていくことが、後継者育成につながっていくと思う。

前田

みなさんと同じですが、私もスポーツ人口を広げていくには、やはり今後各種目の指導者の養成を考えていくことを痛感します。若い指導者を育てていくことが将来の展望につながると思います。それと同時に子どもから老人まで、だれでもが、気軽に参加できる施設の充実を希望します。

司会

大変ありがとうございました。歴代の連盟長さん方、婦人会、青年団の各代表の方により思い出話をまじえてお話し願い、今後21世紀に向かっての体育連盟の進む方向を示唆していただきました。生涯教育が大きく叫ばれる時代に即応した、スポーツ活動の推進力としての体育連盟を中心に住民の方々の健康増進にまい進したいと思います。それでは最後になりましたが、三浦連盟長よりお礼の言葉を申し上げます。

三浦

暑い折、夜分お忙しい中、諸先輩、婦人会、青年団の代表の皆様方には、お集り願いましたことにお礼を申し上げます。先程から時代の流れを詳しくお聞かせいただき、今後21世紀に向かっての体育連盟の進むべき方向をご指示願ったように思います。今後とも皆様方にはよろしくご指導、ご鞭撻をお願い申し上げ座談会を閉じさせていただきます。

ありがとうございました。

編　集　後　記

能勢町体育連盟の結成30周年を迎え、記念誌を発刊することになりました。これまでにも記念誌編集の声があったと思います。それが今日やっと活字となり日の目を見ることになりました。

編集にあたり、ぼう大な書類の中から貴重な記録を抜き出しの中で、能勢町体育連盟の30年間の活動の重みと、ご苦労の跡を改めてつかむことができました。ここまでの歴史を築いてこられた先人の功績に深く感謝し、讃辞を送りたいと思います。

本誌の編集にあたり、日数が少なく、また多忙の中、古い記憶をたどり原稿をお寄せいただいた各支部・団体の皆様に対し、お礼を申し上げるとともに、我々委員の努力の及ばなかった点について陳謝する次第です。

また、常にご指導ご支援を賜っている方々からご祝辞を頂だいし、この記念誌に重味を加えていただいたことについても厚くお礼申し上げます。

結果については、短い時間の中で資料の収拾なども充分ではなく、時期や場所について誤記があるかもしれず、記録に脱落があるかもしれません。どうか資料をお持ちの方、誤記にお気づきの方があれば、事務局までご連絡いただき、次回編集の際にはより以上の記念誌を作ってもらいたいと願う次第です。

お寄せいただいた原稿も、言葉などできるだけ一貫するよう努力しましたが、不十分な点はご容赦頂きたいと思います。

最後になりましたが、座談会への出席者、原稿依頼者、賛助下さった方々、町当局、事務局の皆様のご協力に対し深く感謝申し上げます。

編集委員

記念事業実行委員会

平岡	勝美	北林	充	植村	隆三	泉	清	谷	猛
三浦	進	東	啓次	清水	忠治				
今村	重雄	的場	俊文	乾	栄次	中本	洋二	平田	英司
西	弘	谷	護	前田	篤宏				

事務局（社会教育課）